

節電！節電！のはずが・・・？

大二運内喫煙スペースの照明は 「常時点灯」！？

東日本震災を機会に社会的に「節電」の風潮が高まりつつある中で、JR東海においてもニア建設のためコスト削減が至上命題であり、職場の隅々まで「節電」「節水」など「節約」が浸透されている状況です。各所の詰所、トイレ、寝室等「節電」の張り紙や、特に寝室廊下など照明が半減されています。

ところが、「節電」に逆行するように、大阪第二運輸所詰所内にある喫煙スペースには「常時点灯」と張り紙が貼られています。

一方、大阪第二運輸所内の内勤喫煙スペースは常時消灯しています。

皆さん！何故突如「常時点灯」なのか、わかりますか！？

これまで喫煙スペースのみならず、詰所内外で東海労組合員が他労組組合員と話をしていると他労組組合員が管理者から呼び出しされ事情聴取されたり、「東海労組合員とは話しするな」など忠告を受けたという事例は実際多数起きています。

当然、喫煙スペース内では東海労組合員が他労組組合員と会話しているのは日常的で、カウンター内の管理者側から喫煙スペース内が消灯していると非情に見づらく、誰と誰が話ししているか判明しづらいのです。

喫煙者の複数から「管理者にジロジロ見られている」との証言があります。

なるほど、管理者が喫煙する内勤喫煙スペースには社員管理する必要性もなく、照明は消灯のままでよいのも理解できます。

「節電」より労務管理を優先させる大阪第二運輸所詰所内喫煙スペースの照明の点灯、消灯は喫煙者の任意ですべきで、強制されるものではありません！！